

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	3271600508
法人名	有限会社 ハッピーファミリー
事業所名	グループホーム 大社
訪問調査日	平成 21 年 7 月 10 日
評価確定日	平成 21 年 8 月 24 日
評価機関名	株式会社 ワールド測量設計

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 7月 22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3271600508		
法人名	有限会社 ハッピーファミリー		
事業所名	グループホーム 大社		
所在地	島根県出雲市大社町中荒木2617-85 (電話) 0853-53-2545		
評価機関名	株式会社 ワールド測量設計		
所在地	出雲市荻苅町274-2		
訪問調査日	平成 21年7月10日	評価確定日	平成 21年8月24日

## 【情報提供票より】(21年 7月 1日事業所記入)

開設年月日	平成 16年 8月 20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	10人, 非常勤 4人, 常勤換算12人

## (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	～ 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 20,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:3年)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,340 円	

## (4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名
要介護1	3名	要介護2	8名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.6歳	最低	82歳	最高	95歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	中島医院、手銭歯科、島根県立中央病院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

出雲大社の御膝元に位置し、ユニット名は「縁(えん)」「結(ゆい)」といった「神話の郷」、出雲にちなんだ名前にされている。利用者に自然な生活を送って頂けるように心配りがされており、ホームの車にはあえて事業所名を入れていない。スタッフも利用者も、ジャージや寝間着で過ごすことなく、近所のお店での毎日の買い物もさりげなく行われている。経営者が美容室を営んでいることもあり「お洒落」を大切にされているのもこのホームの特徴である。利用者間の交流や、職員との会話には「親しみ」や「敬う」気持ちが感じられ、穏やかな日々の生活が感じられた。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果は運営推進会議で報告すると共に、「職員の同業者交流」「毎月のプランの見直し」「災害備蓄」など改善点については職員会議で話し合い改善に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各職員がそれぞれに自己評価票を記入することで、個人で振り返りをし、さらにユニットリーダーを中心に話し合うことで、改めて職員間のケアの方向性を再認識する事が出来た。又、調査当日のヒヤリングには一般職員も交代で加わり、全員で外部評価を受ける姿勢が感じられた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの行事や利用者の様子、避難訓練の報告などされている。広報誌の内容についての助言を取り入れたり、社会福祉法人設立に向け、積極的な質問やご意見を頂いている。又、利用者家族からの苦情については、きちんと報告を行い、参加者から意見や助言を頂き、前向きな話し合いが行われている。それらの話し合いにより事業所がどういった対策をたて、行動したかまでを記録、報告されることが望まれます。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年4回、広報誌「まめなかね」の送付や、毎月その方の担当職員が、ご家族宛に手紙を書いて、日々の様子をお知らせしている。支払いの関係で月1回は来所されるご家族が多い。毎月の金銭収支、運営推進会議の報告、緊急でない受診結果、苦情の報告も一緒に送付若しくは手渡ししている。年1回の敬老会「長寿を祝う会」には家族にも参加して頂き、家族だけで話される時間も設けられている。その時に出た意見は毎月のお手紙で全家族に報告している。事務所前には苦情・意見ノートを置き、自由に書き込んで頂くようにしている。また、市の苦情相談窓口や連絡先を事務所前に掲示したうえ、玄関入口にも大きく貼り出すことで、目につきやすく改善された。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会への入会はずとも、清掃活動や空き缶回収など出来る範囲の活動に参加している。自治会をはじめ、近隣の医療機関やスーパー、ホームセンター、同業事業所、市役所を訪ね広報誌を直接手渡すなど、積極的に地域に溶け込む努力をしている。又、住み慣れた地域商店での買い物や散歩は、利用者のご近所の方と触れ合う機会となっている。地域の夏祭りに参加したり、学童を招いての七夕祭り、ボランティアの受け入れなど、地域とのつながりが根付いてきている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時に、スタッフみんなで地域密着型事業所の意義を確認しあい、考えた理念である。抽象的な言葉にとどめず、日々の生活の中で実践されている生きた理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼や申し送り時には意識して理念に触れることで、日々のケアが理念に沿ったものであるか、全職員で振り返っている。パンフレットや広報誌を活用し、利用者家族や地域の方にも事業所の理念、役割を伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への入会はせずとも、清掃活動や空き缶回収など出来る範囲の活動に参加している。自治会をはじめ、近隣の医療機関やスーパー、ホームセンター、同業事業所、市役所を訪ね広報誌を直接手渡すなど、積極的に地域に溶け込む努力をしている。又、住み慣れた地域の商店での買い物や散歩は、利用者のご近所の方と触れ合う機会となっている。地域の夏祭りに参加したり、学童を招いての七夕祭り、ボランティアの受け入れなど、地域とのつながりが根付いてきている。	○	運営推進会議でも話題に出ているが、地域の保育所、幼稚園、小中学校など、子供との触れ合いは利用者が喜ばれるので、是非働きかけて頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員がそれぞれに自己評価票を記入することで、個人で振り返りをし、さらにユニットリーダーを中心に話し合うことで、改めて職員間のケアの方向性を再認識する事が出来た。前回の評価結果は運営推進会議で報告すると共に、「職員の同業者交流」「毎月のプランの見直し」「災害備蓄」など改善点については職員会議で話し合い改善に努めている。又、調査当日のヒヤリングには一般職員も交代で加わり、全員で外部評価を受ける姿勢が感じられた。	○	利用者家族には、評価結果の報告がされていいますが、事業所内の見やすい場所に掲示され、広く開示に努めて頂きたい。又、新しく利用申し込みがあった場合にも重要事項に添付し、説明をお願いする。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に、施設長、管理者のほか、一般職員も交替で参加して行っている。又、地域の民生委員の参加をはじめ、町内会長にも案内状を出している。運営推進会議を避難訓練と同日に設定することで消防署の方にも参加して頂いた事もある。報告書には、次回開催日が記載されており、家族への呼びかけにもなっている。その都度、ご家族にも声がけし参加のお願いをしているが、参加者は限られてしまう。利用者の方には議題によって無理の無い範囲で部分参加をお願いしている。	○	地域のボランティアの方や利用者に身近な方々など参加メンバーの工夫や広がり期待する。
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市のグループホーム協議会の事務局や市、県主催の研修会講師を務めており、市との関わりは密である。又、権利擁護や成年後見人制度の利用ケースや困難事例についてはあんしん支援センターと連携しながら支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回、広報誌「まめなかね」の送付や、毎月その方の担当職員が、ご家族宛に手紙を書いて、日々の様子をお知らせしている。支払いの関係で月1回は来所されるご家族が多い。毎月の金銭収支、運営推進会議の報告、緊急でない受診結果、苦情の報告も一緒に送付若しくは手渡ししている。	○	ヒヤリハットなど家族への報告は、いつ、誰に伝え、どのように返事を頂いたかまでをひとつの記録に残すようにしましょう。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の敬老会「長寿を祝う会」には家族にも参加して頂き、家族だけで話される時間も設けられている。その時に出た意見は毎月のお手紙で全家族に報告している。事務所前には苦情・意見ノートを置き、自由に書き込んで頂くようにしている。また、市の苦情相談窓口や連絡先については、事務所前に掲示したうえで、玄関入口に大きく貼り出された。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は担当制にしている。出来るだけユニット間の異動も最小限に努めている。離職者も少なく利用者と良好な関係を築いている。職員の異動、退職、新入については、毎月の手紙で報告している。利用者本人には、その時の状態に応じてお知らせし動揺がないように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務扱いで、パート職員も含め希望する研修や勉強会に参加出来るように図っている。職員の資格取得に対する意欲が感じられる。研修に参加後は「復命書」を提出し、書面や発表など伝達研修を行い、情報の共有化と職員の能力向上に努めている。職員一人一人が自分のケアを振り返り、課題や次月の取組みを10日毎に提出し、それをもとに毎月、管理者やユニット長と面談を行っており、職員の意見や相談を聞く機会ともなっている。	○	記録時間を設けるなどの工夫がされているが、記録物が多く時間内の整理が難しいようです。重複する部分もあり、皆さんで記録用紙の見直しをされてはいかがでしょうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会や地域の小規模連絡会、研修会等への参加を奨励しており、パート職員を含め、一般の職員も交代で参加している。それによって他事業所との交流も深まり、利用者を交えて行事やお茶に誘って頂く機会が増えた。当ホームで行ったボランティアによる楽器演奏会には近隣のグループホームの方も来所され一緒に楽しまれた。		グループホーム連絡協議会主催の研究発表を一般の方に聞いて頂く企画もたっており、地域事業所が一丸となって認知症ケアやグループホームの啓発に努められることを大いに期待している。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ユニットリーダーと担当予定の職員とで利用者宅に会いに行き、その後、本人やご家族に見学に来て頂き、職員とも馴染みの関係に努めながら、本人や家族が納得した上で利用に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者各人の得意分野や趣味を把握し、出来る限りホーム内で利用者の役割や持てる力を発揮する機会を作り、無理強いくなく共同生活への参加を支援している。孤立しやすい方には職員が仲介しながら和やかな関係を作っている。若い職員や男性職員は調理を教えてもらったり、励まされることも多く、職員との会話のやりとりにも親しみや敬う気持ちが感じられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所までに、不安やどのような生活を希望されているかを聞き取り、職員間で十分話し合い、プランを作成している。その方の担当職員を中心に、希望に沿った支援に努め、柔軟に対応している。常に利用者の言葉に耳を傾け、利用者の想いを家族へ代弁することもある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当の職員が利用者や家族の希望を聞き、課題や目標を明確にしたうえでユニット毎に全職員で話し合い介護計画を作成している。毎日の職員の評価や気づきがプラン作成や見直しに反映するシステムを工夫、実践されている。	○	家族がプラン作成に参加していることを自覚できるような関わり、受診の立会いや年末年始の外泊など、家族とのつながりが途切れないような援助を、もう一度職員で話しあってみて頂きたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の行動や気持ちの変化を把握し、ユニット会議で検討し、状態に応じた支援方法に変えている。ユニット目標や個別ケア重点目標を決め、個人の振り返りシートを使って毎月見直し、次月の目標を決めている。変更したことや気をつけることなどは、記載して職員間で共有しながら対応している。半年に1度はこれらの記録を活かし介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診や緊急受診は家族に代わって職員が付き添い、受診結果を家族にきちんと報告している。入院の際は病院に面会に行き、連携を図りながら、利用者や家族を支援している。	○	受診や医師との相談も事業所が行う事で家族の負担は少なくなっている。高齢化する家族負担の軽減は必要ですが、利用者と家族の距離を離す結果も懸念され、行政を含めた十分な話し合いを望みます。家族にも普段の様子や変化を直接感じて頂き、家族を含めて医師との信頼関係を構築することも大切ではないかと考えます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣からの入居者が多く、入居前から事業所の協力医がかかりつけだった方が多い。そうでない方は、強制ではないものの、本人、家族の承諾を得て、紹介状を交し協力医に変更して頂いている。専門医を受診される方もあり職員が付き添っている。体調の変化があった場合は看護師や管理者に報告し、主治医の指示を仰ぐ。協力医療機関の医師、看護師とも連携が十分とれ、信頼し気軽に相談出来る関係にある。	○	入居後、通院支援のしやすさが優先されていないでしょうか。本人や家族の馴染みである、これまでのかかりつけ医で診て頂けるように支援し、やむを得ない場合を除き主治医の変更は勧めない方向で話し合ってみて頂きたい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに、数例の終末期ケアを経験されている。重度化し、本人や家族が終末期をホームで希望された場合には、「できること」「できないこと」をきちんと説明している。事業所には日勤2名、夜勤1名の看護職員が配置されており、利用者や家族、他の職員の安心につながっている。		これまでの経験を活かし、自己評価されているように、終末期に向けた介護計画を作成し、全職員の方針を統一し、支援体制を整えていって頂きたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	定期的に自分のケアを振り返り、気になることはその都度、問題提起され、職員が共有出来るシステムにある。プライバシーに配慮した入室や排泄支援についても、職員一人一人が意識を改めることで、ケアが統一され利用者の尊厳が守られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	排尿、排便チェックをしながら、トイレ誘導や尿器での排泄、排便コントロールを実施することで気持ち良い排泄支援をしている。職員が排泄パターンを把握していく事で、タイミングよくトイレ誘導ができ、リハビリパンツの使用も減っている。家族との外出、職員と個別で夕食やドライブ等出来る限り利用者の願いを叶えるように支援している。晩酌を嗜まれる方や、絵が好きで、展覧会や画材店へ行かれる方もある。職員も思考を凝らし、海が好きな方と一緒に魚釣りに行く計画もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理専属の職員ではなく、全職員が交代で調理している。一人一人の力を活かして、食事の準備を手伝う利用者も多い。手伝えない方でも、目の前で調理をするところを見たり、味見をするなど五感を刺激している。職員1名が検食として、利用者と同じ物を食べている。可能な限り、食事の献立作り、買い物から片付けまで、利用者と一緒に楽しみながら行っている。又、食事が美味しく食べられるように毎食後の口腔ケアにも力を入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことのできる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が希望する時間に声掛けして、本人の意思を確認してから入浴を支援している。利用者と職員が1対1でゆったりと向き合い話ができる有意義な時間となっている。異性の介助に抵抗がある方へは同性が介助するように配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味や希望に沿って外出や外食など職員が個別に対応している。日常では利用者各人の得意分野や趣味を把握し、出来る限りホーム内で利用者の役割や持てる力を発揮する機会を作り、無理強くない共同生活への参加を支援している。又、ホーム内に美容室が設けられており、資格を持った職員に毎月、整髪や髪染め、パーマをしてもらう方が多いが、馴染みの理髪店へ行かれる方もある。着る服は自分で選ぶなどオシャレ心を大切にしたい利用者の希望に沿った支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の食材の買い物や散歩など日常的に外出している。又、希望に沿った個別の援助がされており、外食や本人の買い物では自分の財布から支払うようにしている方もある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量のある道路に面して建っているが、日中は玄関に鍵を掛けず、常にホールや事務所に職員がいて目配りしている。玄関や居室の窓など風通しが良いように開放されている。利用者の思いや外出傾向、その日の気分や状態の把握に努め、利用者が外出される時は、さりげなく見守り同行している。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月訓練を行っており、消防署の協力で利用者と一緒に避難訓練（昼夜設定）や通報訓練、救急法、消火器の使い方等の指導を受けている。災害時の備蓄についても見直し、水、食料のほか、薬品も備蓄されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員で構成する食事係が作成している。利用者に合った量の調整やメニューの変更、食事の形状、食器を提供されている。食事を工夫したり、排尿排便チェック表を使って十分な水分摂取を促しながら、下剤を使わず自然排便となるように支援している。	○	献立については、専門的なアドバイスを受けられることをお勧めします。高齢の方には、食事と一緒に汁があった方が食べやすいと思います。果物は除き1汁2菜を基本として献立を見直してみたい。
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの天井は高く、大きな梁の枠組みが見え懐かしさを感じられる。出来るだけ自然の風を取り入れているように窓は開放されており、風通しの良い場所に椅子が置かれているので、利用者は気の合う入居者同士好きな場所で談笑したり、通る方に手を振るなど穏やかな日々の生活を感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に備え付け家具は無いので、利用者が自宅で使っていた馴染んだ家具や大事な物を持ち込んで、自由な配置にされている。ベッドやタンス、カーテンも自由で個性ある部屋となっている。		